



日時 | 2018年  
**10月21日(日)**  
13:30-16:00 (開場 12:30)

会場 | 京都府立京都学・歴彩館  
大ホール

言語 | 日本語 (手話通訳あり)

入場無料 | 定員 400名 (要申込・先着順)

※7月7日(土)より延期いたしました

国際京都学シンポジウム

# テレビドラマの外国語

## ～京都育ちアメリカ人の役者人生～

日本語のせりふはわざと外国人ほく話している？

日本人の共演者に英語のせりふのアドバイスをする？

NHK 連続テレビ小説「わろてんか」や大河ドラマ「西郷どん」などのテレビドラマ、映画で活躍するバイリンガル俳優ブレイク・クロフォードさんと一緒に言語と文化とコミュニケーションについて考えます。

### プログラム

第1部 講演 「京都育ちアメリカ人の役者人生」  
講師 ブレイク・クロフォード (俳優)

第2部 パネル・ディスカッション  
「テレビドラマの外国語」  
パネリスト ブレイク・クロフォード (俳優)  
渡辺 宥泰 (法政大学教授)  
小林めぐみ (成蹊大学教授)  
司会 山口美知代 (京都府立大学教授)



### ブレイク・クロフォード

京都で育ち、歌舞伎、日舞に興味をもつ。外国人歌舞伎グループ「ジャパネスク歌舞伎」のメンバーとして高校時代より舞台に立つ。日米バイリンガル俳優として日本のテレビドラマ、映画に多数出演。

近年の作品として映画「嘘八百」、NHK 連続テレビ小説「わろてんか」、「べっぴんさん」、NHK 大河ドラマ「西郷どん」、「八重の桜」、日本テレビ「奥様は、取り扱い注意」、テレビ朝日「ドクターX」、「科捜研の女」など。

【主催】 京都府立大学文学部 【共催】 京都府立京都学・歴彩館、京都府立大学京都地域未来創造センター

【後援】 NHK 京都放送局、京都新聞、共同通信社京都支局 問合せ先：京都府立大学文学部 電話番号 075-703-5117

# テレビドラマの外国語

## ～京都市育ちアメリカ人の役者人生～

### シンポジウム「テレビドラマの外国語～京都市育ちアメリカ人の役者人生～」見どころ紹介

第1部はブレイク・クロフォードさんの講演です。NHK連続テレビ小説『わろてんか』の詐欺師偽ハミル氏や大河ドラマ『西郷どん』で又吉さん演じる将軍家定の奇行に驚いたアメリカ全権大使ハリスなどで、クロフォードさんをご覧になったかたも多いのではないのでしょうか。

クロフォードさんはアメリカで生まれ、6歳のときに来日して京都で育ちました。神戸のインターナショナルスクールで歌舞伎に出会い、外国人が日本語で演じる「国際ジャパネスク歌舞伎」の舞台に立ちます。「歌舞伎は古い伝統芸能だからありがたいと思ったのではない。先輩たちがやっている歌舞伎をみて、すごい、これはおもしろい、と夢中になった」という10代、20代の歌舞伎体験は、その後の演技にどのような影響を与えたのでしょうか。

バイリンガル俳優としてテレビ、映画で仕事をするクロフォードさんは、日本人の共演者に英語のせりふについてアドバイスを求められることがあるそうです。そういうときはまず、そのせりふで何を伝えたいのか質問するといいます。「何を伝えたいかが一番大事。それがわかったら、それを伝えるには英語をどう話せばいいか教えられるから。英語の発音や話し方が先にあるわけじゃない」というのはコミュニケーションの本質に関わる視点です。

第2部は社会言語学者の渡辺宥泰さんと小林めぐみさんを迎えて、山口の司会でクロフォードさんに質問をする形で「テレビドラマの外国語」について考えます。渡辺・小林・山口の三人は「英語をめぐる言語態度の東アジア比較研究—映像メディア分析と教育的活用」という共同研究を行っており、今回のシンポジウムもその一環です。

テレビドラマで外国語が使われるときには、その外国語を通して行われるコミュニケーションの内容自体よりも「外国語が使われていること」が大きな意味を持つことがよくあります。日本人キャラクターが「英語べらべら」であるときのイメージには、たとえば「有能、エリート、鼻持ちならない」などがあるかもしれません。英語のイメージ、象徴するものが重視されているのです。

「英語が上手な日本人」というイメージを視聴者に与えるために、よく使われるのは、複雑な構造の、難しい言葉を使ったせりふを速いスピードで話すことです。それではむしろ通じにくくなり、演技上の負担になることもあるのですが、「英語べらべら」演技には速さが欠かせないようです。

一方、クロフォードさんは「日本語が下手」な演技を求められることもあるといいます。しかし、そこで求められる「下手さ」と、本当に日本語が話せない外国人が話す日本語は違うと感じるそうです。日本人にとっての「日本語が苦手な外国人の日本語」は発音、抑揚重視の傾向があります。せりふ自体は説明せりふのように長く複雑なもので、それを「下手な発音」でいえば「日本語下手」の演技とされるのです。

テレビドラマの外国語では、「上手な英語」「下手な英語」「下手な日本語」というようなイメージを伝えることが重視されているようです。パネルディスカッションではこうした現象を社会言語学者が、「指標性(インデクシカルティ)」や「ステレオタイプ」「マーカ―」などの概念を使って整理します。またクロフォードさんにはフロアからの質問にも答えてもらいます。

ドラマ撮影裏話から社会言語学まで。10月21日午後1時半、京都市営地下鉄北山駅徒歩4分、京都学・歴史館において下さい！(文責・山口美知代)



小林めぐみ (こばやし めぐみ)

成蹊大学経済学部教授。専門は社会言語学および英語教育。米国ペンシルバニア大学言語学博士。最近の著書に『社会人のための英語の世界ハンドブック』(大修館、2017)など。世界で使われている多様な英語(World Englishes)や、それが映画やドラマなどでどう使われているかに興味があります。趣味と実益を兼ねて海外の映画やドラマ(主に英語と韓国語)を鋭意鑑賞中。



渡辺 宥泰 (わたなべ ゆうたい)

法政大学GIS(グローバル教養学部)教授。専門は社会言語学とニュージーランド研究。訛りに対する社会の評価や聞き手の意識を研究中。Language Awareness (イギリス、2017)、Te Reo (ニュージーランド、2008)などの学術誌に英語の訛りに関する論文を発表。劇中で方言が用いられることの効果、SF・ミステリーのネタにされた言語学理論の真偽にも興味があります。



山口 美知代 (やまぐち みちよ)

京都府立大学文学部教授。専門は英語学。特に近代以降の英語の多様性について。ケンブリッジ大学修士、京都大学博士。著書に『世界の英語を映画で学ぶ』(松柏社、2013)、『英語のスタイル』11章「映画で学ぶ会話のスタイル」(研究社、2017)他。石原さとみさんが英語を話すテレビドラマ「5時から9時まで～私に恋したお坊さん～」や映画「シン・ゴジラ」が好きで、その魅力を分析中です。

### 応募方法

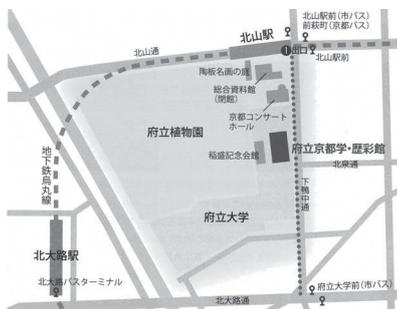
期間 7月15日(日)～10月15日(月) 余裕があれば当日参加可。

Eメールでの申込 TVdrama@kpu.ac.jp 氏名(ふりがな)をお知らせください。

往復はがきでの申込 〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学文学部

「テレビドラマの外国語」受付係 氏名(ふりがな)、住所、電話番号をお知らせください。

(ご記入いただいた個人情報は本シンポジウムに関するご連絡のみに使用いたします)



●JR・近鉄京都線、阪急烏丸駅から 京都市営地下鉄烏丸線「北山駅」下車(①出口)南へ徒歩4分

●京阪出町柳駅から 京都市バス1 府立大学前(北大路通)下車北へ徒歩6分

●JR二条駅から 京都市バス206 府立大学前(北大路通)下車北へ徒歩6分

会場へは便利な京都市営地下鉄・市バスをご利用下さい

本シンポジウムは科研費研究課題「英語をめぐる言語態度の東アジア比較研究—映像メディア分析と教育的活用」基盤研究(c)研究課題番号16K02885の研究結果の一部です。